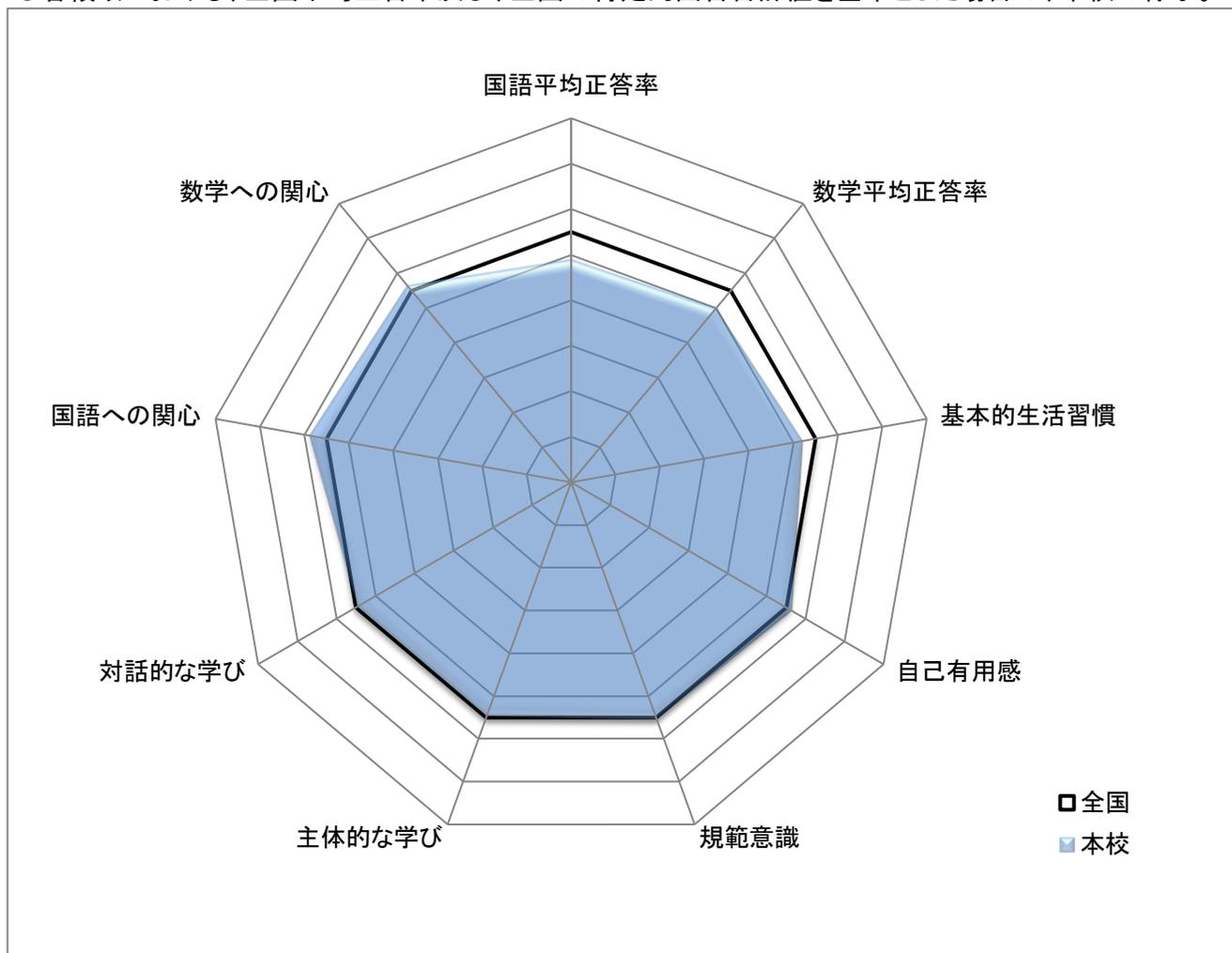


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

全国平均と比較して、正答率は10ポイント弱下回っている。他の項目は全国平均と比較しても、際は感じられないが、国語・数学を苦手としている結果となてはいるが、国語・数学への肯定的な意見は多い。本校の授業が丁寧かつ個別対応を充実しており、学習が嫌い・苦手と感じる生徒が少ない結果になった。今後、勉強を大切に感じる思いを、学力向上につなげる取り組みが必要となる。

《授業改善のポイント》

学習へのの関心や大切さを感じてはいるが、それが学力の定着につながっていない状況である。また、自分で課題をもつ、その課題について考える・調べる、これからの生活にどのように生かすことができるかを考えることなどを苦手としている生徒が多いため、探究活動や協働学習を多く取り入れた授業改善を行う。自らがしっかりと疑問をもち、皆と協働しながら答えを導き出し、しっかりと自分の言葉で回答できる、表現できるようになれば、これからの社会でも、自ら考え、対応できるようになると考える。また、探究や協働をスムーズに行うことができるよう、ICTの活用にも積極的に取り組み、より良い環境づくりをする。

《チャートの特徴》

学習への関心は高く、特に学習を嫌う様子はないが、結果は、全国平均を数ポイント下回る。また、基本的な生活習慣が崩れている生徒も少なくはない。その他は差異はほとんどない。生活習慣がしっかりしていないと、基礎学力の定着等にも影響が出てくるのがわかり、今後、家庭と学校が連携し、すぐにでも取り組まなければならない改善点である。自己有用感が多少平均を上回っているが、他者を認め、自分を認め、自他ともに受け入れあうことを、粘り強く指導している結果、自分が認められている、必要とされていると感じられるようになってきたのだと考える。今後も生徒継続していきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒が興味・関心の高いこと、自分で考え、必要だと感じたことを学習させてください。また、その事柄に対して、保護者の方も興味をもってもらい、一緒に学習していただくと、さらに良い効果を得ることができると思います。